

静岡県老人福祉施設協議会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70
静岡県総合社会福祉会館内TEL. 054-653-2311 FAX. 054-653-2312
E-mail: shizurosi@vesta.ocn.ne.jp
<http://www.shizu-roshikyo.jp/>

しづ老施協

卷頭言

「養護老人ホーム」



静岡県老人福祉施設協議会

養護委員会 委員長

水野 晴久

今年度より2年間、養護委員会委員長を仰せつかりました。まだまだ経験が浅く未熟者ではありますが、高齢者福祉の充実と県老施協の発展に尽くして参りたいと思いますので宜しくお願ひいたします。

養護老人ホームは貧困により生活に困窮した高齢者の受入施設「養老院」が始まりとされており、それ以降一貫して国の責任の下で弱者救済の措置施設として運営が図られてきているものであります。しかし、措置費及び施設整備費が一般財源化されて以来、施設の近代化が大きく遅れている現状があります。また、養護老人ホームは「元気な人が入所している」「特養より、楽である」等は、以前のお話。近年の傾向として要支援・軽度要介護を有する人、心身に障害が有る人々、虐待や経済的な理由により独立した生活が困難な人等で、以前と比べ幅広くなっています。

そのような状況の中で多くの施設が定員割れを起すとともに、利用者の重度化による職員の止むをえない増員、施設整備の資金不足など施設運営に苦慮しているのが現状です。

これから養護老人ホームがどのようにあるべきか、地域での自立生活支援の方向性が強く打ち出された制度改革。元々、地域に基盤が乏しく家族や親しい友人を持たぬ利用者を地域へ、在宅へという流れだけで一律な支援はできません、「終の棲家」と決然して施設に入所してくる現実もあります。

本人にとって本当に望む生活は何なのか、地域での自立生活を支えるネットワーク作りなどへの支援、施

設での生活を豊かにしてゆく取り組みなど、多岐にわたって柔軟に実施されることが求められています。

今後さらに高齢者社会となります。養護老人ホームが「複合的な生活問題を抱える高齢者のための施設」であるという意義と、「老人福祉に関する情報の共有、自治体・地域との連携、防災（震災）」など地域生活にかかわる、養護老人ホームの役割は大きいと思います。

昨年、全国老施協は「養護復権」を掲げ、今後のあり方について課題など取り挙げていますが、国の思惑、大都市の状況、地方の状況には相違があります、一気呵成に改革が進むわけもなく、現状を正確に把握・理解してもらうためにも養護委員会の中で議論をしていく必要があると考えています。

7月26日に行なわれた高齢者福祉研究大会が、のように昨年にも増して盛況に行なわれ、介護にかかる新たな取り組みや、資質向上に向けた取り組みなど、老人福祉施設職員皆様の積極的な姿勢・向上心など、意識の高さに感銘を覚えるとともに、私もその一員として老人福祉に携わる事の重さをひしひしと感じています。

最後に、皆様のご協力の下、微力ではございますが、県老施協の一翼を担い努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻を宜しくお願いします。また、会員各位のご健勝と益々のご繁栄をお祈りいたします。

（養護老人ホーム「藤枝市立円月荘」施設長）

特 集

第4回高齢者福祉研究大会を終えて

7月26日、静岡県グランシップにおいて、第4回高齢者福祉研究大会が開催されました。研究発表者123名（発表72題）、参加者は福祉関係学生を併せて726名総勢900名を超える盛大な大会となりました。

第4回高齢者福祉研究大会を終えて

大会実行委員長 種 岡 養一

 7月26日、午前10時よりグランシップにおきまして、第4回高齢者福祉研究大会が開催されました。今回も講演会と研究発表という昨年同様のスタイルでしたが、研究発表者123名（発表72題）、参加者は福祉関係学生を併せて726名、スタッフ68名と総勢900名を超えるご参加を頂いて無事に終了出来ました。

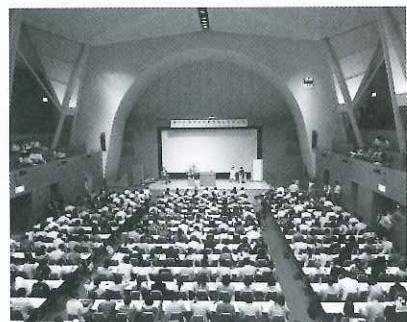
午前の講演会に先立ち、石川会長の開会の挨拶で幕を開け、今年は静岡県健康福祉部福祉長寿局の大石玲子様のご祝辞を頂き、本大会へのご期待の大きさを実感しました。

講演会は、元SBSアナウンサーでヴォイスセラピー実践研究家の上藤美紀代氏をお迎えして、「声のもつ力～相手を想う声遣い～」と題して、日常生活の会話の中で相手を思いやる声の出し方やコミュニ

ケーション向上のための接し方などを、発声基礎訓練なども織り交ぜながら楽しくご講演頂き、新たな気づきや日常会話のあり方を再考させられる良い機会を頂戴しました。

講演会終了後、6ブロックに分かれて研究発表が開始されました。他施設の工夫や取り組みが良い刺激になった方多かったです。今回も研究発表内容のレベルが高くなり、各ブロック会場で審査に当たられた委員の皆さんも大変ご苦労されたとのことでした。また優秀賞に選出された発表は、今秋開催予定の「介護力向上研修会」で再度聴講出来ますのでお楽しみにして下さい。

結びに、大会当日の運営には老施協事務局の皆様の陰のお力添えと、毎回ぶつけ本番に近い状況で大会の運営に携わって頂きました、企画経営委員会の皆様、研修委員会の皆様、21世紀委員会の皆様、大会実行委員会皆様のご協力に深く感謝いたします。ありがとうございました。



第4回高齢者福祉研究大会 優秀賞

ブロック	施設名	演題
A	みはるの丘浮島	『ひとこと帳』しっかりとした絆を求めて
B	いちごの里	個別ケアへの取り組み
C	御殿場十字の園	希望を創る、ユニットを超えた“いきいきクラブ”
D	土肥デイサービス	運動器機能向上プログラムの取り組みとその効果
E	いづテラス	粒々かゆ
F	静光園	認知症の方と信頼関係を築くために

優秀発表事例の紹介

『ひとこと帳』しっかりとした 絆を求めて

特別養護老人ホーム みはるの丘浮島

介護職員 庄 司 喜久美
介護職員 望 月 絵 里

今回、『ひとこと帳』に取り組んだきっかけは、余命10日と診断されたお年寄りの家族が「最期をみはるで迎えたい」という想いに応えるために始めました。

『ひとこと帳』に、お年寄りの日々の様子や何気ない一言を書き綴っていき、いつでも誰でも記入できるようにしました。その結果、ユニット職員だけでなく看護師・主治医などからもたくさんの記入があり、多職種との絆が深まりました。

そして1年後、家族から「母は皆さんの愛情に包まれていると安心しました。（一部抜粋）」と記入がありました。私たちの気持ちや介護が認められたと感じ嬉しく思い、励みとなりました。

この経験により、看取りになってから何かを始めるのでは遅いのではないか、今が大切なのではないかと

感じ、『ひとこと帳』をユニット全員のお年寄りに取り組みました。『ひとこと帳』にその時にしかない言葉と様子を残すことで、家族・職員が情報を共有し、つながることができると思いました。

その後、家族の方に『ひとこと帳』について感想を聞いたところ、「『ひとこと帳』を見れば様子が分かって助かる。」との話しもあり、家族の方も必要としていると実感できました。

今回、『ひとこと帳』を通して学んだ事は、お年寄り・家族・職員がつながることの重要性です。入所してからのお年寄りの



生活は、それまで過ごしてきた何十年もの人生の中の貴重な時間であり、その時と共に過ごしている介護士の使命として、もっと多職種、家族に伝えなければいけないということです。

今後も、お年寄りを中心にしっかりと絆でつながっていく為に日々の関わりを大切にし、家族に生きた証を伝えられるよう『ひとこと帳』を書き続けていきたいと思います。

個別ケアへの取り組み

特別養護老人ホーム いちごの里

介護主任 杉山 泉
ユニットリーダー 平井 友実絵

私達の所属するユニットは、入所者6名・ショートステイ10名の合計16名で構成されています。

年々重度化する入所者様に対し、徘徊・帰宅願望の強いショートステイのご利用者様が増加し、ユニット職員の介護負担や精神的負担が増加してきました。

そんな中、アルツハイマー型認知症の一人の利用者様が入所され、その症状により周囲の利用者様も、より一層落ち着きがなくなる様子が見られるようになってきました。

「どうにかしたい」そんな思いから、アルツハイマー型認知症の勉強会を開催し、症状の理解とケア方法について検討しながら取り組んできました。

しかし、利用者様に変化は見られなく、「安心した生活を送ってもらいたい」と考え、以前施設内研修で

学んだ『タクティールケア』への取り組みを決めました。

目標として、介護拒否の軽減・奇声等の認知症周辺症状の緩和・自発的な言語等意欲の向上と定め、①タクティールケアの勉強会 ②職員同士での体験 ③施工方法の検討を行い進めてきました。

タクティールケアとは、筋肉や深い組織を刺激するマッサージとは

違い、柔らかく包み込むように決められた動きで皮膚を優しくなでる動作で、肌と肌の触れ合いによるコミュニケーションを大切にすることにより、不安な感情を取り除いたり、痛みを和らげたりする効果があると期待されている補完的ケアのひとつです。



タクティールケアを行う中で少しづつではありますが、徘徊・介護拒否の減少や、表情が穏やかになるなどの効果が見られるようになりました。

今回の研究テーマを通じ、利用者様と介護者が良い関係を持てば気持ちも安定しやすくなる。また、基本的なケアがしっかりと提供され、生活のリズムが整っていることで利用者様に安心した、穏やかな生活を送って頂けるのだと思いました。

これからも、「利用者様に寄り添ったケア」を目標にしていきたいと思います。

希望を創る、ユニットを越えた “いきいきクラブ”

特別養護老人ホーム 御殿場十字の園

介護支援専門員 田代 みどり
作業療法士 橋本 知美

御殿場十字の園では利用者及び職員の「できること、したいこと」に着目して、趣味活動に取り組んでおります。

きっかけは、施設ケアマネージャーの「その人らしい希望を叶える個別ケアとはどんなものか。」と思案していたことです。

まずは、利用者・職員の双方に生活意向調査を実施しました。すると、利用者に手芸・工作をやってみたい、仲間づくりがしたいというニーズがありました。また、職員には人それぞれ特技があること、利用者の余暇活

動に力を入れたいという想いを持ちながらも、なかなか関われないというジレンマを持っていたことが分かりました。そこで、平成23年7月にいきいきと趣味活動を楽しめるよう願って、“いきいきクラブ”を発足させました。

活動内容は映画鑑賞会、季節の題材を盛り込んだ作品作り、体を使って楽しむ活動などを一ヶ月に2回、水曜日の午後に行うというものです。

始めは20名程度の参加でしたが、次第に人数も増え、「次は何を創る?」、「映画はこんなものが見たい」という期待や意欲の向上が見られました。また、ユニットを超えて集まる機会ができたことで、利用者同士の交流も増え、作品の展示、年賀状を出したことによって、御家族との交流が増えるきっかけも作ることができました。

職員側にも利用者の能力に気づくきっかけをつくることができ、積極的にアイデアを提供して参加する職員も増えました。また、ユニット内の趣味活動にも盛り上がりが見られました。

シリーズリレーコラム

3日間の停電で得た教訓

特別養護老人ホーム こもれび
施設長 池田 達哉

昨年9月21日、台風15号が静岡県を直撃し、死者16名という大きな被害をもたらしました。対応に苦労された施設様も数多いかと思います。

山あいに位置する当施設は近隣の土砂崩れにより同日午後に停電し、結果的に復旧まで2夜3日間を要しました。備えていた防災マニュアルは用を足さず「機械浴が停止して入居者が浴槽から出られない」「ギヤッジアップした電動ベッドが戻らない」など、予測していないかった対応に追われました。照明は小型自家発電機が1台のみ。現場には電池式の照明器具を用意していましたが、器具も電池も不足していました。照明器具で思いのほか役に立ったのはヘッドライトで、職員が介助する際に両手が自由になり重宝しました。電話も基盤の電源が落ちて不通となりましたが、発電機から直接電力供給できるよう、工事を依頼しました。水道は断水しませんでしたがポンプが回らず、1階の貯水タンクからヤカンで運搬、トイレ等で使う生活用水は近所の農業用水を汲んできました。食事はガスが使用可能でしたので暗闇の中なんとか調理出来ましたが、やはり人力での運搬に苦労しました。幸い施設から離れた市街地は停電しておらず、照明器具や乾電池、

平成24年度からは、年間計画を作成してユニットごとに企画を分担することとし、ボランティアの協力を得て、更なる展開をみせています。

「ささやかなことでも続けていくことに意義がある」を合言葉に取り組んできました。今後も笑顔が増える活動を広げて参りたいと思います。



ウェットティッシュ、使い捨て食器等の不足物品を買いに行くことが出来ました。もう一つ幸いだったのは日中の気温がそれほど高くなかったことです。熱中症対策のため発電機で使える扇風機の必要性を感じました。

異様な緊張感の中でも、大きな混乱はなく3日間を乗り切りました。その後、停電期間の行動を全職員で検証し、必要物品の見直しや対応手順など、実践で使えるマニュアル作りを進めています。今年6月の大震でも1晩の停電がありましたが、事前に浴槽に水を張るなど落ち着いて対応できるようになりました。東日本大震災を始め大規模な自然災害が後を絶ちませんが、その教訓を無駄にせず、防災対策をしっかりと進めて行きたいと思います。



施設名称の由来と想い

伊豆半島の西海岸のほぼ中央に位置する西伊豆町。太陽の里はそこに、町民待望の高齢者施設として、特別養護老人ホーム30床、ショートステイ5床の規模で、平成13年に開設されました。

町が半島の西に位置し、駿河湾に沈む雄大な夕陽が海岸から眺望できることから、施設の名称は「太陽の里」とすぐに決定しました。

美しい夕陽となり西の海に沈んでいく太陽は、見る者の一日の疲れを癒してくれる。そしてまた翌日になると必ず昇ってきて、その膨大なエネルギーを分け隔てなく私達に注いでくれます。

「要介護状態になっても地域の中で明るく生き生きと暮らしたい」、「太陽の里」は、そんな人たちを応援する、誰でも気軽に立ち寄れる開放的な施設を目指しています。そこは、陽だまりに思いやりが集まり、あたたかな笑顔の絶えない場所であり、利用者・ご家族様が安心できる施設。そんな想いが開設当初から息づいています。

現在、西伊豆町の高齢化率は40.8%であり、県下でも高齢化の進んだ地域の一つとなっており、今後も一人暮らし世帯や高齢者のいる世帯が増加していきます。そんな中で、法人として、高齢者の方々が可能な

特別養護老人ホーム 太陽の里
施設長 渡辺 サチ子

限り住み慣れた地域やご自宅で生活できるよう生活支援させていただくことを目的に、施設サービスと在宅サービス（デイサービスやショートステイサービス）を提供しています。

スタート当初、定員5名だったショートステイは、急な要望や多くのご利用希望者の声に応えるため、静岡県および西伊豆町の指導のもと、本年度5月20日から定員10名となりました。

太陽の里は、「地域になくてはならない施設」としての信頼を築くとともに、地域の方々に太陽のように明るい笑顔をもって、ご利用者・ご家族様の想いに心を傾け、日々の暮らしの支援に精一杯努力していく所存です。



●施設のユニーク行事●

「地域との交流を原点に」

ケアハウス あんしんの里

施設長 大井 久美子

「地域と共に」をモットーで始まった取り組みが、卓上遊戯大会です。平成19年11月第1回を開催し、今年6月17日に第10回を開催致しました。種目は、将棋、麻雀、オセロです。参加者は年齢問わず、施設の入居者様やご家族、在宅利用者様、地域の方々までどなたでも参加対象です。初回20人程度参加者が今では40人以上の盛況ぶり。昨年度までの参加者実人員129人、中には、ほぼ毎年参加されている方が9人、述べ340人、3歳の子供から最高齢は99歳まで。

子供も大人もみんなで和気あいあいと、種目での対戦では、年齢や子供と大人の隔たりなく平等に参戦できることが、ちょっとした優越感でしょうか。施設のご利用者様は、日頃からトレーニングの成果を發揮す

べき場が、卓上遊戯大会だと猛特訓です。そんな大会を楽しみに日々利用者様同士、たまには職員相手に対戦されています。施設内での楽しみが一つでも増えていくことが、ご利用者様はもちろん、ご家族様からも喜んでいただけることではないかと思います。また、その喜びが職員の励みとなっています。

優勝が決まり表彰式での一言が、「今度こそ、優勝してみたいな。」とか、「次回は、他の種目で参加してみよう」とか、思いも色々。でも、とっても楽しみにして頂いていることが、伝わってきて次回開催できることの喜びとなって職員へのパワーを頂けていると思います。

これからも、地域と共に交流をさらに深めていけるよう努力していきます。



東日本大震災被災地視察報告から

静岡県老人福祉施設協議会会長 石川三義

被災地大槌町への視察

去る平成24年4月10日から2日間、私は法人職員数名と岩手県釜石市の仮設住宅のサポートセンターと大槌町の特養ホーム「らふたあヒルズ」及び仮設住宅のサポートセンターを訪れた。私たち法人は、昨年の震災後6月から2ヶ月間に渡り職員12名を県のボランティア協会と連携して、大槌町の被災地に派遣してきた。その関係で昨年の11月には、「らふたあヒルズ」の芳賀施設長に伊豆市で講演をしていただいた。

震災後の特養ホームが果たした役割

「らふたあヒルズ」は、大槌町の吉里吉里地区の海岸線を見下ろす高台にあったので、津波による被害はなく、地震による建物の被害も天井裏の水道管が破裂し、廊下が水浸しになった程度であった。その為、震災当日から3日間は200名程の地域住民が施設に避難

してきて、入居者と一緒に生活を共にされた。食料は、3日間施設の非常食を地域住民にも分け与えて、一日一食で生活できたが、水の確保が一番大切であると、強調されていた。職員は、電気・水道・ガスなどライフラインが止まった状態で、入居者の介護と地域住民への対応等に献身的に努められた。特養ホームなどの福祉施設は災害時にまさに地域住民の避難所として極めて重要な役割と機能を果たしてきたといえる。

視察から見えてきた今後の取り組み・課題

- 1) 地域住民の避難を想定した食料の備蓄をもとより、水の確保をいかに計るかを検討しておくこと。
- 2) 海岸部と内陸部の施設が予め災害協力協定を締結しておくこと。
- 3) 一法人一施設では、入居者をそれぞれ分散して預けるために連携する施設を決めておくこと。
- 4) 震災時の利用者・職員の安否確認の仕方、職員の確保など。



▲高台上に残っている建物が特養ホーム「らふたあヒルズ」震災直後地域住民200人が避難して廊下等で3日間泊まり込む



浪板地区の仮設住宅内にあるサポートセンター・デイサービス機能とグループホーム機能をもつ

活動報告

【老施協】

★24年7月26日、第4回高齢者福祉研究大会をグラ
ンシップにおいて開催、参加者900人余

★理事会 24年8月7日、会長表彰候補者の承認、
高齢者福祉研究大会開催結果報告、県への社会福祉
についての要望、24年度研修計画(案)、関東ブロック
研究総会、県との懇談会、「介護の日」啓発活動、
県事業との連携・協働について協議・報告等

【企画経営委員会】

★24年6月11日、県との懇談会、県への要望、調査・
研究テーマ、「介護の日」啓発活動、しづ老施協の
編集・校正・企画について協議

★24年7月4日、高齢者福祉研究大会実行委員会等
との合同会議、全体スケジュールと役割分担、班別
業務について協議

【研修委員会】

★24年7月4日、高齢者福祉研究大会実行委員会等
との合同会議、全体スケジュールと役割分担、班別
業務について協議

★24年8月28日、介護力向上研修を静岡県産業経済
会館にて開催、91名が受講

【21世紀委員会】

★24年6月29日、接遇マナー研修を静岡音楽館にて
開催、143名が受講、同日、施設間職員交流研修、
高齢者福祉研究大会について協議

★24年7月4日、高齢者福祉研究大会実行委員会等
との合同会議、全体スケジュールと役割分担、班別
業務について協議

【高齢者福祉研究大会実行委員会】

★24年7月4日、企画経営委員会、研修委員会、21
世紀委員会との合同会議、全体スケジュールと役割
分担、班別業務について協議

【養護委員会】

★24年6月26日、委員会役員の改選、会則の改正、
今後の活動計画、高齢者福祉研究大会、県との懇談
会について協議

【特養委員会】

★24年6月11日、研修計画、調査・研究テーマ、高
齢者福祉研究大会、県との懇談会、県への要望、「介
護の日」啓発活動について協議

【軽費委員会】

★24年6月26日、施設長研修を総合社会福祉会館に
て開催、28名が受講

【在宅委員会】

★24年7月12日、研修計画、調査・研究テーマ、高
齢者福祉研究大会、県との懇談会、「介護の日」啓
発活動について協議



編集後記

「ケアハウスはるかぜ」の近く愛鷹山麓に新東名サー
ビスエリア「ネオパーサ駿河湾沼津」がこの4月にオー
プンしました。地中海の港町をイメージした建物で、
とてもお洒落な「街」といった感じです。新東名唯一
のオーシャンビューエリアで東は箱根山、南は駿河湾、
西は三保の松原まで一望できる景色です。外部から利
用できる専用駐車もあります。お年寄りも「とても眺
めがよく綺麗で楽しかった」と話していました。

(山下)

まだまだ残暑厳しい中、朝夕は秋を思わせるさわや
かな風を感じられるようになりました。当施設のまわり
では、早くもススキの穂をみることができました。

さて、県が介護職の人材確保に予算を投じてくれる
ようになりました。

ただし、人材確保の手法は各施設で考えるようにな
ど。よりよい方策を見出して、1人でも多くの人材確保に
向け、お互い頑張りましょう。

(長島)

新加入施設紹介

平成24年10月現在

デイサービスセンター（単独）

み も ざ

法人名 社会福祉法人 岳陽会
 開設日 平成22年5月1日
 (入会申込 平成24年4月1日)
 施設長 渡邊 瞳
 所在地 富士市岩本133-1
 利用定員 35名



小規模特別養護老人ホーム

丘 ホ ー ム

法人名 社会福祉法人 信愛会
 開設日 平成19年9月1日
 (入会申込 平成24年6月1日)
 施設長 奥津 匠俊
 所在地 富士市厚原672-1
 入所定員 20名 デイサービス 42名



特別養護老人ホーム

グレイス

法人名 牧ノ原やまばと学園
 開設日 平成22年8月1日
 (入会申込 平成24年5月12日)
 施設長 鈴木 ひろみ
 所在地 牧之原市坂部5623番地1
 入所定員 29名
 デイサービス 12名 短期 8名



軽費老人ホーム

わだの里

法人名 社会福祉法人 慈照会
 開設日 平成21年8月1日
 (入会申込 平成24年8月1日)
 施設長 倉田 聰
 所在地 富士市今泉1丁目11-7
 入所定員 20名

(お詫び) 9月の新規加入施設、「ケアハウス みどりの風・おかべ」につきましては、紙面の都合上次回以降に掲載させて頂きます。

【東日本大震災義援金について】

平成23年7月以降、義援金を寄せていただきました会員施設をご紹介いたします。御協力ありがとうございました。

ケアハウスカリタスみわ、ぶなの森、葦山・ぶなの森、第二遠州の園、高麗、相良清風園、
 ながいづみホーム、静光園

なお、平成23年4月に全国老人福祉施設協議会ほか、関係団体に寄付した後、平成24年3月11日までに寄せられた義援金785,052円は、岩手県社会福祉協議会・高齢者福祉協議会へ寄付をいたしました。

引き続き、募金を継続していますので、ご協力をお願いいたします。

【受入口座】 (金融機関) 静岡銀行県庁支店 普通預金 No0310439

(口座名義) 老施協 東日本大震災義援金口 代表 石川 三義

ロウシキョウ ヒガシニホンダイシンサイギエンキングチ ダイヒヨウ イシカワ ミヨシ